

「羊の可能性を探る～少人数による羊群移動～」

動物園・動物飼育専攻 2 年

萩原美月 太田遥 林龍之介 梁田胡桃

小太刀由実 大久保祐海 牧山はるか

<目的>

私たちは、神奈川県にある服部牧場から羊移動時の人員削減方法の依頼を頂いた。現在、牧場では畜舎と複数あるパドック間の移動をスタッフ 5～6 人で行っている。これをトレーニングした羊を利用する事で 2 人まで人員削減する事を目的とした。

<方法>

I. 羊の馴致（2 年前に先輩方が行った『羊の可能性を探る』のトレーニングの実施）

1 段階目、トレーニング羊に首輪とリードを付け拘束される事に慣らすトレーニングを行う。

2 段階目、畜舎内で人と一緒に歩くトレーニングを行う。

3 段階目、畜舎外で人と一緒に歩くトレーニングを行う。

II. 新たなトレーニングの実施

4 段階目、人と一緒に歩く場所を舗装路と同じように草地でも歩けるトレーニングを行う。

5 段階目、様々な速さでの移動に対応できるようにトレーニングを行う。

最終段階、実際にトレーニング済みの羊を利用して群れを誘導する。

<結果>

方法①の結果、4 週間で人と一緒に歩けるようになった。

方法②の結果、2 週間で人と一緒に歩く場所を舗装路から草地に変更し、歩くスピードに変化をつけてもスムーズに移動出来るようになった。

最終段階の結果、トレーニングをした羊を利用し、20 頭の羊の群れの誘導が 2 人で出来た。

<考察>

今回の羊のトレーニングは、特別な知識や経験がない学生でも行う事が可能であった。また、牧羊犬を利用した羊の移動と比べ、特別な技能がなくても、羊をトレーニングする事で容易に群れを誘導する事が可能であると分かった。このことにより、容易に誰にでも実践出来る事がわかった。

トレーニングでは、今回 5 分から始まり回数を重ね、最終段階には 30 分近くまで延びた。しかし、各トレーニングの後半に羊の集中力が続かない様子が見られたので、全体的に見て一回当たりの時間は少し短い方が羊の体力・集中力的に良かったと考えられる。そして、1 日に 5 回という回数は、牧場内での作業の合間で出来るので、スタッフの負担にならない適度な回数だと思われる。

羊の群れが大きくなった場合、群れ幅が広がるので、先頭を歩く羊は複数頭で並行して誘導する必要があると考えられる。

<展望>

今回、トレーニングした羊を利用して実際に 20 頭ほどの羊を誘導する事が出来た。よって、羊の習性を考えると、今後、羊の頭数が増加しても同じように誘導する事が可能だと考えられる。

また、羊と一緒に歩いたり、羊の群れをスムーズに誘導する事で、羊がいる観光施設などでパレードや記念撮影などの催し物として利用でき、集客に繋がる可能性がある。福祉施設では、のアニマルセラピーや、土地整備でのレンタル羊など様々な企業に貢献し、羊の需要アップにも期待出来る。